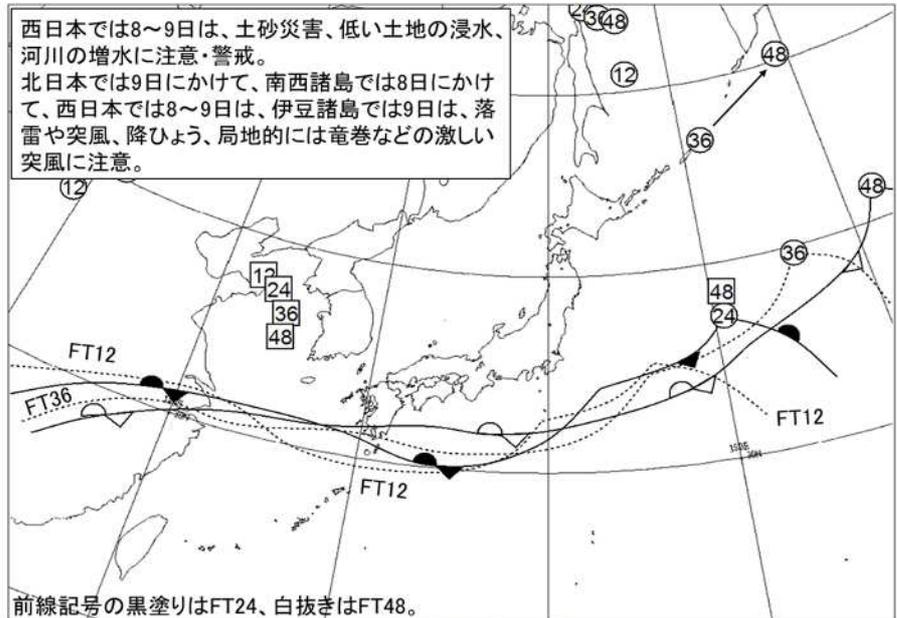


### 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が、華中～南西諸島～日本の東にのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、東シナ海～日本の南で雷を検知、沖縄近海で激しい雨を解析。
- ② オホーツク海の寒冷渦の周りを回る、500hPa 5520m付近で-21℃以下の寒気を伴うトラフに対応して、低気圧が沿海州を東北東進し、北日本は気圧の谷となっている。北海道地方では、やや強い雨を観測、雷を検知。北日本では、やや強い風の吹いている所がある。
- ③ フィリピンの東を低圧部がゆっくり西北西進。低圧部の周辺では対流活動が続いている。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の強風軸の流れは南北の変動が小さく、1項①の前線は9日にかけてゆっくり北上し、8日は華中～種子島・屋久島付近～日本の東、9日は華中～九州南部付近～日本の東に停滞する。前線に向かつて下層暖湿気 (850hPa  $\theta_e$ 345K以上) が流入し、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、前線が停滞するため、総降水量が多くなるおそれがあることに留意。西日本では8～9日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。南西諸島では8日にかけて、西日本では8～9日は、伊豆諸島では9日は、落雷や突風に注意。
- ② 1項②の寒冷渦は9日にかけてオホーツク海に停滞。その周りを回る1項②のトラフに対応する気圧の谷が7日夜にかけて北日本を通過し、8日は500hPa 5640m付近のトラフに対応する別の気圧の谷が北日本を通過する。また、9日は、500hPa 5520m付近のトラフに対応した低気圧がサハリン付近に進む。低気圧や気圧の谷に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北日本では9日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 9日にかけてフィリピンの東には低圧部が停滞。低圧部周辺の対流活動の実況や今後の予想に留意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

### 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：九州南部120mm。
- ② 波浪(明日まで)：高い所 (3m以上) はない。

### 5. 全般気象情報発表の有無

「大雨に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。